

## 第1回精華町文化財保存活用地域計画作成協議会 会議摘録

■開催日時 令和5年12月22日(金) 午後3時00分～午後5時00時

■開催場所 精華町立図書館(1階)集会室

■出席者 上杉和央委員、麻生美希委員、田中淳一郎委員、檀上幸裕委員、  
前田眞千代委員、清水泰律委員、麻生ひろみ委員、富田二三彦委員、  
石崎善久委員、大原真仁委員(代理:上原耕一)、森山賢一委員、  
竹鼻毅委員、水谷直子委員

欠席者 岩本泰一委員

事務局 川村智教育長、田原孝一生涯学習課長、  
西置雄一社会教育係長、中川博勝古文書等調査員

傍聴人 0人

### ■次第

1 開会

2 あいさつ

3 精華町文化財保存活用地域計画作成協議会委員の委嘱

○委員の委嘱

○委員の紹介

4 議題

(1) 会長および副会長の選出について

(2) 文化財保存活用地域計画の趣旨・制度の説明

(3) 精華町における計画作成の工程(今後の予定)

5 その他

6 閉会

## ■議事要旨

### 1 開会

#### <事務局>

第1回精華町文化財保存活用地域計画作成協議会を開会させていただきます。進行を務めさせていただきます教育委員会生涯学習課課長の田原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

次第のとおり、会長と副会長の選出、そして文化財保存活用地域計画の趣旨・制度の説明、そして今後の計画作成の予定等について議題がございます。会長が選出されるまでは、私が議事の進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、この協議会の開催にあたりまして、教育委員会川村智教育長から、ごあいさつを申し上げます。

### 2 あいさつ

#### <川村教育長>

皆さんこんにちは、教育長の川村でございます。

皆さま方には平素から精華町の文化財保護行政の推進にご理解とご協力をいただき、また強い関心を寄せていただき厚く御礼を申し上げます。この度は公私とも大変お忙しいなか、文化財保存活用地域計画作成協議会委員へのご就任をお引き受けいただき、深く感謝を申し上げます。（中略）本協議会の委員は文化財の所有者や管理者だけではなく、幅広い活用を見据えて、地域の歴史や多様な文化交流に取り組まれている方々、そして学研企業の関係団体の方々にもご参画をいただいたところでございます。本日お集まりいただいた委員の皆さまから、幅広く、また専門的な貴重なご意見を頂戴いたしまして、地域社会総がかりで文化財を守り伝え、そして活用が図られるような計画の作成に努めてまいりたいと考えております。

皆さま方におかれましては今後、本町の文化財の状況をご覧いただき、その特徴がどのようなものなのか、そして活用していくためにはどのような方法が有効であるのか。本計画を作成していく過程で、忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

簡単でございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

### 3 精華町文化財保存活用地域計画作成協議会委員の委嘱

#### ○委員の委嘱

##### <事務局>

精華町文化財保存活用地域計画作成協議会委員の委嘱でございます。本来であれば、委員の皆さま全員に委嘱状を直接お渡しすべきところですが、会議の進行を優先させていただき、今回は机上配布にて委嘱状を交付させていただいております。ご理解・ご了承を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本町では、審議会等の会議の公開に関する指針というものがございます。本日の会議につきましても、原則公開といたします。希望者の傍聴を許可しており、また後日、議事録を公開することとしております。これによりまして会議を進めさせていただきますので、ご理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

#### ○委員の紹介

##### <事務局>

委員の皆さまのご紹介の方をさせていただきます。委員名簿に従いまして、順にお名前のご紹介をさせていただきます

(委員の紹介)

##### <事務局>

次に教育委員会の事務局を紹介させていただきます。

(事務局の紹介)

### 4 議題

#### (1) 会長および副会長の選出について

##### <事務局>

会長及び副会長の選出について、でございます。文化財保存活用地域

計画作成協議会の設置要綱の第5条に、「協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める」とあります。従いまして、会長及び副会長を選出していただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。立候補あるいは推薦等ございましたらご意見、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。もし、いないようでしたら、教育委員会の方からご提案させていただきたいと思います。

#### 【「事務局一任」】

ありがとうございます。それでは、教育委員会からご提案をさせていただきたいと思います。会長には京都府立大学准教授の上杉和央様を推薦させていただきたいと思います。また、副会長には同志社女子大学准教授の麻生美希様を推薦をさせていただきたいと思います。皆さま、ご意見ございますでしょうか。

#### 【「異議なし」】

よろしいでしょうか。それでは異議なしということで、承認される方拍手をお願いしたいと思います。

#### 【拍手で承認される】

ありがとうございます。拍手で承認いただいたということで、会長に上杉和央委員、副会長に麻生美希委員ということで、よろしくお願いいたします。それでは両委員は座席の移動をお願いいたします。

#### <事務局>

ただいま就任されました上杉会長と、麻生副会長より、一言ずつごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### <上杉会長>

精華町は文化財保護審議会委員でも関わらせていただいております、去年

度末（今年の3月）まで精華町まちづくり委員もさせていただきました。精華町のまちづくりについて、これまで関心を持って取り組んでまいりました。地域計画については、いくつかの自治体で作成のお手伝いをさせていただいています。その経験を活かして、精華町らしい計画を作っていければと思っています。よろしくお願いいたします。

#### <麻生副会長>

私の専門分野は都市計画ですが、歴史文化を活かしたまちづくりについて研究してきました。ここに住んで良かったと思える、ここに住みたいなと思ってもらえるようなまちづくりに、歴史・文化という切り口が入っていけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

#### <事務局>

ありがとうございました。協議会設置要綱第6条に、「協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる」とありますので、会議の進行につきましては上杉会長にお願いしたいと思います。

### (2) 文化財保存活用地域計画の趣旨・制度の説明

#### <上杉会長>

議題の(1)を終わり、(2)に進みます。文化財保存活用地域計画の趣旨、制度について、事務局生涯学習課から説明をお願いします。

(事務局の中川および上杉会長より、地域計画の趣旨・制度の説明)

#### <石崎委員>

上杉先生の説明のとおり、何がどうなりたいかが重要です。

木津川市の地域計画は3年掛かりました。文化財に関心のある方だけではなく、若い方にも文化財に関心を持ってもらい、子供たちも誇りに思うような取り組みを、悩みながら考えていったのですが、たくさん盛り込みすぎたかなという思いもあります。

三町が合併しているので、それぞれの町毎で違う考えの方もおられます。

実際に動いてくださるような住民さんを、どう作っていくのかが大事だなと感じました。文化財に興味のない住民さんを、どのようにこの計画に巻き込んで行くのかが大事なのかなと思います。

#### <上杉会長>

歴史や文化財に関心のある方々だけではなく、新住民の方と精華町に長く住まわれてる方(旧住民)、大きく分けて二つのグループがあるのかなという気がします。その方たちが等しく精華町を好きだと思っていただけるように、精華町が好きだという根本に歴史文化が位置づくの良いなと思います。

#### <清水委員>

ふるさと案内人の取り組みとして、当初は毎月22日開催としていました。3年前にファミリー層など、若い世代が参加しやすいよう開催を第3土曜日に変更したのですが、なかなか参加者の増加には至っていません。イベントの告知として、広報紙「華創」に毎月掲載しポスターを駅の連絡通路や町の施設に掲示させてもらったり、町のホームページやふるさと案内人の会のブログ、フェイスブック等でも告知しているのですが、なかなか若い方に伝わらないようです。今後の目標としては、精華町にある学研企業で働く方々にもチラシを持ち込んで告知していければと考えています。

#### <上杉会長>

今の発言に現状の課題が出てきました。一つは、若い世代に届いていない現状がある。もう一つは、精華町へ働きに来られている方々へ、精華町の魅力を伝えられていないのではないかな。そのような現状を把握し、現状分析として示されたら、アクションプランとして取り組むべき内容が見えて来ると思います。

#### <竹鼻委員>

ニュータウンと既存の街(旧集落)とでは、全く違う街のように感じます。ニュータウンの人たちへ精華町にはこんなものがあると紹介し、旧集落とニュータウンとのつながりを作っていければと感じています。

<水谷委員>

若い世代を（ふるさと案内人の会の）イベントに参加していただきたいのですが、若い世代は「華創」はあまり読まないのではないかなと思います。各戸に配布はされているのですが。今の若い世代の方々は、やはりスマートフォンからの情報が中心だと思うので、ラインなど活用を検討されるのはいかがでしょうか。

<上杉会長>

伝えたい人に十分伝わっていないという課題があるのだと思います。麻生さん、外国人の方々へ精華町の魅力発信のような取り組みを行う際に、十分に伝わっていないというような課題があったりするのでしょうか。

<麻生ひろみ委員>

ふるさと案内人の方と同じような悩みを持っています。チラシを配布をしていますが、それを見て来た方もいますし、ホームページや華創の記事を見て来られる方もいますが、やはり学校の先生など人から人への繋がりから参加される方が多いです。

<上杉会長>

技術が進歩しても、人から人への方が確実に告知できたりしますね。その点についても、様々な部分で改善の余地はあると思います。精華町はデジタルで文化財を発信するという取り組みについては、全国でも先進的な町だと思いますが、ある意味で発信だけしていても伝わっていないのではないかと、今日の協議会でも大きな課題として出てきたという気がします。

<富田委員>

学研都市の企業で働いている方の多くは土日が休日ですが、通常は終日職場にいて、通勤でも（地元を）素通りしてしまう。そして住民でもない。そういった方たちは多いと思います。

<上杉会長>

このような点は、総合計画の議論でも出てきていて、昼間だけ精華町にお

られる方へ、いかに精華町の魅力をアピールするのかという議論が出ていました。

<上杉会長>

新興住宅地に住まわれている方も精華町の魅力に気付いていない方が多いと思いますから、他の市町村から仕事にいられている方にとっては（なおさら精華町の魅力に気付くのは難しいかなと思います）。そうすると例えば、企業との連携であったり、学校と連携していく等の取り組みが大事なのかなと思います。

<清水委員>

私どもの組織（ふるさと案内人の会）は現在20人前後が所属しているのですが、その中でも6～7割が新興住宅地にお住まいの方で、旧集落の在住者は3割程度です。

<上杉会長>

新住民の方でも文化財等に関心のある方は参加されているということで、そこは良い点で、そこからいかに伸ばしていくかが課題かなと思います。

<前田委員>

私は生まれも育ちも精華町で、この地域の良いところも悪いところも知っています。退職後に時間の余裕ができた方で、地域の文化財などに興味を持たれるのは新住民の方のほうが多いです。旧集落から人を呼び寄せられないもどかしさを感じています。文化的な関心を持たせていただくには、どうしたらいいのだろうという課題はいつもあります。

<上杉会長>

旧住民の方があまり参加されないのは、意外といえば意外ですが…。

<前田委員>

以前、精華町の10か年計画の会議に出たことがあります。配られた資料に計画の構想などが書かれていたのですが、その資料には「文化」という



項目が一つも無かったので、精華町は“文化”学術研究都市なのだから、章の目次に文化・芸術を入れてほしい、もっと関心項目として入るべきではないか、という意見を出したのです。旧集落にお住いの方から「精華町に文化は無いんだよ」と言われました。他の皆さんもそう思っておられるのかなと、非常にショックを受け落胆しました。その時に、何とかしなければと思いました。こういうことを通じて特に旧住民の方に、精華町は連綿と続いてきた古い地域なのだから、沢山の魅力があるのだと知ってほしいと思っています。

#### <檀上委員>

私は精華町の生まれではありませんが、精華町に来て25年になります。歴史や仏像の愛好家の方は、重要文化財の智証大師坐像を見に、東京からでも来られます。ただ、小さなお寺で駐車場もないため、観光バス等で大勢の方が来られても受け入れが難しいのですが。

お寺のある僧坊地区も古い集落で、昔からの家並みが残っています。しかし高齢化が進んでいて、一人暮らしの高齢者が亡くなると、多くは更地になってしまい小規模の家が新築されます。かつての街並み風景が崩れていっているのは確かです。

#### <上杉会長>

街づくりでは「課題はチャンス」とよく言うのですが、地域計画を作成することで全てを解決することはできないのですが、まずは把握していくことが大事だと思います。

行政から委員として企画調整課と商工推進室に参加いただいています。行政の各部署の施策とも密接にかかわってくるということは、ご認識いただけたかなと思います。文化財の部署・教育部局だけで終わるものではない、そのような計画なのだというところをご了解いただいて、役場内の連携を高めていただければと思います。

#### <森山委員>

2年ほど前から、観光と魅力発信の部分で旧住民の方・新住民の方、どちらにも心に刺さることを目標に取り組んでいる事業があります。ひとつは

「みつける」という、魅力発信のタブロイド紙を不定期で作成し、広報誌とともに各戸配布させていただいています。特に歴史や文化だけに特化せず、まずは町民の皆さんに広く知っていただくことを目指しています。宝物を見つける感じで作っており、好評をいただいています。

また、「この先も精華町に住み続けたい」というアンケートを行った際、成人や大人の方からは良い回答をいただくのですが、小学生や中学生では良い回答の割合がずっと低くなります。若い世代がこの先もずっと精華町で活躍していきたいという思いを持ってほしいというのが、町としての大きな課題でもあります。そういった意味でも、タブロイド紙「みつける」を若い世代にも読んでもらえるよう、発信していきたいと思っています。

#### <上原委員>

総合計画を策定した際のアンケートで、「精華町の魅力や自慢できることなんですか」という設問に対して、一番は「自然が多く緑豊か」。次に「企業が集まり研究所がたくさんある学研都市らしさ」があがりました。住んで良いと思っておられる方が多いのかなと分析していますが、それがうまく繋がってないのかもしれないと、今回委員の皆さまからお話をお聞きして課題だなと思いました。

また子供の取り組みですが、子供向けの「科学のまちの子供たち」プログラミング教室やロボット教室を実施し好評をいただいています。そのような講座とコラボしたりお邪魔をさせてもらうなど、また今までと違う取り組みができるのかなと思いました。

#### <上杉会長>

精華町内の新旧住民、これからは新旧と分けずに取り組んでいくという考え方も大事かもしれません。一方で、大人と子供への情報発信の部分、いかに伝えていくのかというところに、課題は大きくあるのだなということがわかりました。

#### <田中委員>

40年前だと、どの地域でも郷土史家のような方がいましたが、現在は全国的に居られない地域が増えています。住民の方へ地域の歴史を語り継

いていくのは、今後は郷土史家の方に代わって行政がするのだろうか、どなたがしていくのかというのが大きな課題だと思っています。

また、精華町には施設がありません。民具や出土遺物などを常設的に展示し、日常的に見る事ができる施設があれば、新住民の方々へ郷土史家の方や旧住民の方が、精華町の歴史的な魅力を伝えていく機会も作りやすいのではないかなと思います。そういったことを話し合う切っ掛けに、この地域計画があるのだと思います。

先日、文化財指定調査の関係で、近鉄の狛田駅に降りたのですが、狛田駅の東側が「狛田一丁目」という町名になっていて吃驚しました。「狛田」という地名は、「菱田」と「下狛」があわさった地名です。それが狛田一丁目という地名を新しく作ってしまうと、狛田という地名が昔からの地名だと勘違いされてしまう、誤った認識が広まってしまいます。それは非常に良くないことです。「菱田」と「下狛」という地名を残さなければいけません。地名も一つの文化だと思います。地名を含めて歴史文化だと考えていきたいと思っています。

#### <前田委員>

精華町には展示施設がないということは、以前から行政にお願いしてもなかなか実現しないのですが、教育委員会が所蔵している文化財を町民に触れてもらえる、文化財を展示する場所を確保してほしい、そのような動きに持っていきたいと思っています。

#### <麻生ひろみ委員>

外国人も含めて情報を発信したり情報を取りに行ったりできる、交流の場が欲しいと思っています。ごみの出し方など、ちょっとしたことが聞きに行けるような場があったら良いなと。時間もあまり気にせず自由に行けて、文化財も精華町の歴史も、様々なサークル活動やNPO法人など、そういった情報が即座に入手できる場所が欲しい。その中に、外国人の情報発信もあればと思っています。

#### <上杉会長>

歴史文化というのは“らしさ”ですね。それはいっぱいあるけれども、たくさん課題があります。この先10年で解決できることもあれば、解決できないこともあるかもしれません。文化財の展示施設は難しいかもしれませんが、しかし書かないことには進みません。

発信の方法など、10年以内で解決できるような部分もあるかもしれない。様々な課題が出てきたと思います。このような“らしさ”や課題をまとめていて、より良い地域計画できればなと思います。

#### <麻生美希委員>

大学の地域遺産の授業で学生たちに「文化財を活かしたまちづくりがいかに大事であるか」という講義をするのですが、なかなか伝わりません。しかし、そこにどんな人が住んでるか、どんな暮らしが営まれているのか、どんな思いを持ってやってるのか等を雑談的に話すと、結構伝わったりよく反応を示します。事実には人の思いが乗った時、初めて「自分にとって関係あることなのかもしれない」と、それが感じる瞬間なのかなと思っています。熱い思いに触れたからこそ、今があるというところが、まさにそこに通じるところかなと思います。

人の顔が見えるような計画、人から人へ繋がる、交流というのが一番の肝になってくるのかなと、お話を聞かせていただいて感じました。

#### <上杉会長>

人が見える。人が見えることによって自分事になる。という思いをもって、検討していただけたら良いなと思います。

### (3) 精華町における計画作成の工程(今後の予定)

#### <事務局>

この計画につきましては、作成期間を令和5年度から令和7年度の3ヵ年ということで計画をしております。本日1回目の会議の方を開催させていただきました。令和5年12月22日でございます。今年度は来年の2月にもう1回会議を開催させていただきたいと考えております。令和6年度については3回、また令和7年度についても3回の会議の開催を計画しています。

最終的にはこの計画は文化庁長官の認定を受けてでき上がります。この文化庁長官の認定を令和7年度に受けるべく、計画作成を進めていきたいと考えております。委員の皆さまのご協力の方、よろしくお願いしたいと思います。

## 5 その他

## 6 閉 会

### <事務局>

それでは、これをもちまして令和5年度第1回精華町文化財保存活用地域計画作成協議会を終了させていただきます。本日はご多用のところ、どうもありがとうございました。